

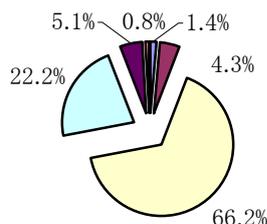
2014年春 消費者の暮らし向きに関するアンケート 集計結果

●今後半年間の暮らし向きに関する消費者マインドは低下！（データ01～06）

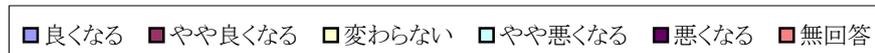
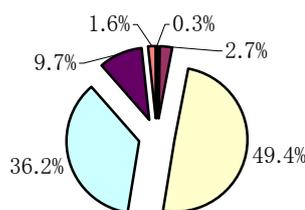
公益社団法人ふくい・暮らしの研究所の標記アンケート(2014年4月実施、有効回答数864)によると、前回調査(13年秋)に比べ、今後半年間は「収入」が増えず「暮らし向き」は悪化すると消費者はみており、消費者マインドは12年秋以降上昇傾向だったのが一転して低下しています。ただし、「支出」は変わっていません。

今後の購入姿勢でも、「必要なものは買う」や「これまでと同じくぜいたく品は控える」という声が多く、4月実施の各メディアの調査でも「支出」を減らしていない方の比率が60%以上となっており、「これまで控えてきたのを続ける」という意味で、消費税増税の支出への影響はないと思われます。

図表1 今後半年間の暮らし向き
2013年9月調査

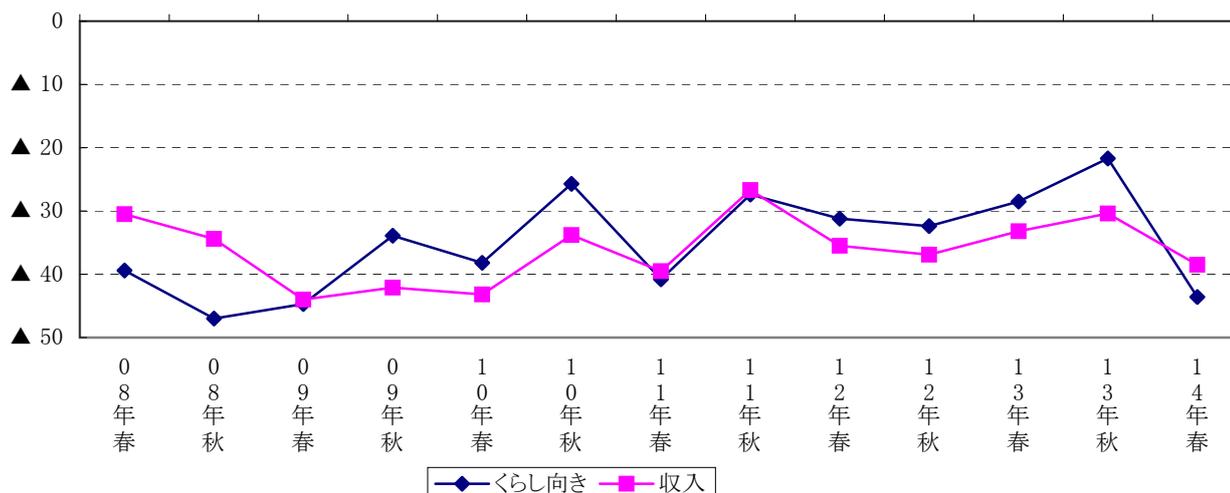


2014年4月調査



図表2 今後半年間の「暮らし向き」「収入」のD.I.値推移

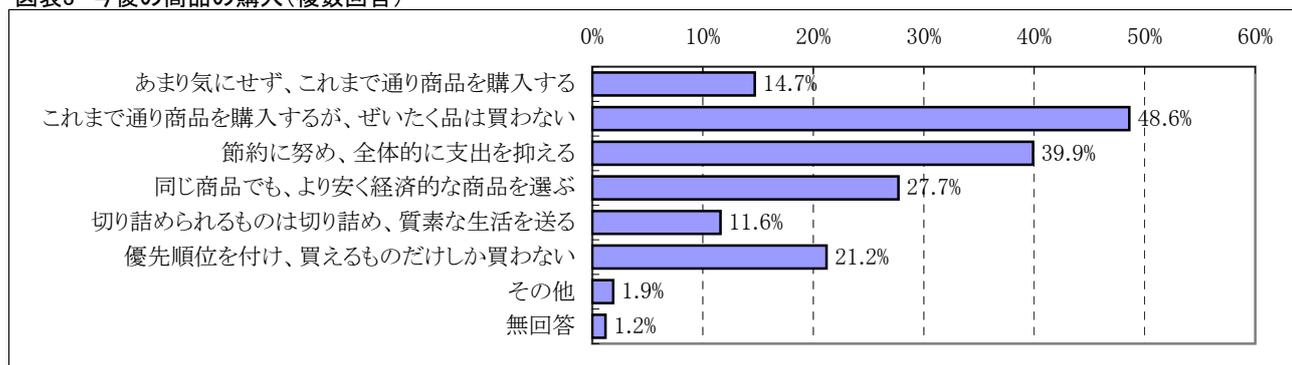
※08年秋:リーマンショック、11年春:東日本大震災



●消費税増税の影響は、あまりないと思われる(データ16～17)

消費税増税も収入が増えておらず、「控えるようになった」「変わっていない」方が各36%と多くなっていますが、今後については「これまで通り商品を購入するがぜいたく品は買わない」や「節約に努め全体的に支出を抑える」方が多くなっており、買物に対する選択はますます厳しくなっています。わかりやすい表示については、総額が分かりやすい「108円(税込)」や「108円(本体価格100円)」が多くなっています。

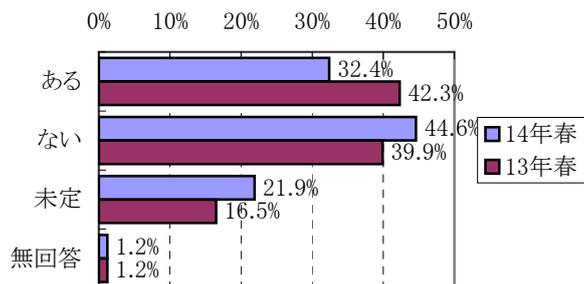
図表3 今後の商品の購入(複数回答)



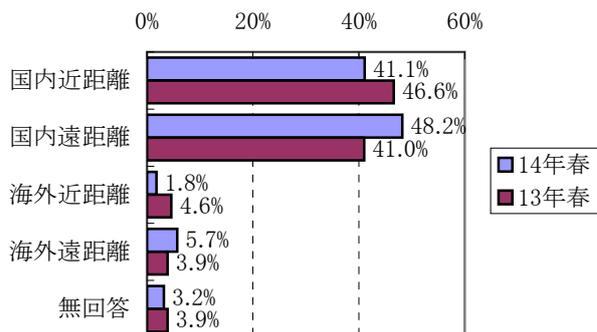
●旅行予定は減少も、旅費予算が増え、国内遠距離や海外遠距離が増加(データ07~08)

旅行予定者は昨春調査と比べて減っていますが、旅行先は国内・海外遠距離が増加しており、平均予算も8.3万円(昨春6.9万円)と増加しています。旅行に行く方と行かない方との差が大きく出ています。

図表4 今後半年間の旅行予定



図表5 旅行先



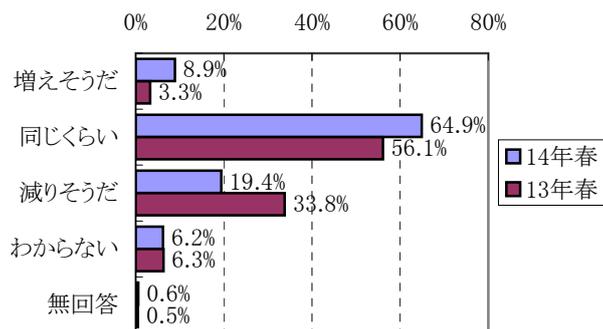
●貯蓄額は、やや減少(データ09~10)

平均貯蓄額は820万円(昨秋864万円)とやや減り、貯蓄を「増やしていく」方も昨春より減少しています。

●ボーナスは「増えそう」で、「婦人服・洋品」や「旅費」、「子供服・ベビー服」に使用予定(データ11~12)

夏のボーナスは昨春より「増えそう」で、「婦人服・洋品」や「旅費」、「子供服・ベビー服」、「紳士服・洋品」、「パソコン」に使うという方が多くなっています。

図表6 今夏のボーナス



図表7 ボーナスでの購入商品ベスト5

	14年春	13年春
1位	婦人服・洋品	子供服・ベビー服
2位	旅費	婦人服・洋品
3位	子供服・ベビー服	紳士服・洋品
4位	紳士服・洋品	靴
5位	パソコン	おもちゃ・ゲーム機

●お中元は、予算は変わらないが贈る方がさらに減っている(データ13~14)

お中元は、「贈る」47.6%(昨春50.3%)、「贈らない」41.2%(昨春39.7%)と更に贈る方が減っています。平均予算は5.4千円(昨春5.1千円)とあまり変わっていません。

予定商品は、「ビール」や「和洋菓子」、「ハム」、「果物詰合せ」、「素麺」等が多くなっています。

もらって嬉しいものは「商品券・ギフト券」や「洗剤」、「ビール」、「米」、「商品選択型ギフトカタログ」等で、もらって困るものは「焼酎」や「日本酒・地酒」、「へしこ」、「らっきょう」が多くなっています。

●暮らしに関する考え方は、「これ以上の税負担は耐えられない」の比重が上昇(データ15)

平均点が最も高かったのは「自然の脅威の前では人の力には限界があり、どうしようもない」で、次いで「国は災害防止のための補強工事や情報提供をもっと行うべきだ」「家族の一体感や絆を深めることを第一に考えている」の順となっています。一方で最も低かったのは「家族みんなが楽しむためによく外食する」や「我が家の災害に対する備えは十分である」で40点台となっています。

「これ以上の税負担は耐えられない」の平均点が上昇し比重が増えた一方で、「生活に多少の不便があっても、安全性を重視したリスクの少ないエネルギー政策を取るべきだ」や「将来の社会福祉政策の充実のために、税負担が重くなっても仕方がない」が減少しました。